

中心となつて世界何處の國も及ばざる女學校を設立し、因襲の舊弊以外、經濟の困難以外に超越して婦女の心身を教育したのである、其結果としてニュー、イングランドは身軀の強壯にして元氣豊なる婦女而かも學問あり藝能あり、意志決斷力あつて兼て優美清淑の徳を具へたる婦女を多く世に出だすに至つたのである、ニューイングランドには前に述べた如く立派なるセンツルマンの標式を具へて居る人物が多い、而して一方には立派なるレーディーの標式ある婦女があつて之に相對して居るのである、此地に如何なる性質の家庭が出来るかと云ふ事は實際を見ずとも略ぼ想像はせらるゝのである。

(未完)

## 寄書

女子の總べて男子に比し  
思考力に乏しき所以如何  
といへる質問につきて

### 越後 愛讀者の一人

第一號の質問に就きまして私は事實たと思ひます、其原因として明言が出来ませんけれども思付た丈も申述べて見ませう。其主なるものは、第一慣習上、第二生理上に限ると思ひます。

第一慣習上に就て申しますが、これは母親の罪だと信じます。曾て感したまへに述べますが或婦人会に四才許の女兒をつれて來られた人が御座いま



したが、たま／＼秋の候で、木の葉が黄ばみて居りましたが、此女兒は不思議そうに打眺めやがて母に向ひ「御母さん、この前に來た時は白かつたのに今はなぜ黄色くなりました」と尋ねました。私は傍に居りましたが此有益なる發問に對し、如何に言ひ開くならんと、待つて居りましたに驚くべき答が出ました、即「なるからなつたのさ」と言ひましたが、子供は其言葉の意味は、自然の變化だと悟りましたろうか、此木は栗の木で前に花の時には開會したからです。今一つ、三才ばかりの女兒と祖母と共に草摘みをして居りました時或草を手を致しまして「此草は何」と祖母に示しましたに、それは毒草だといひました、又暫くたつと前の草を出して何と問ひました祖母も初の如く答へました。かくする中四度位で、遂には「くと

い子だね」と叱られて止みました、子供は如何にも不平らしいやら、残り惜しそに見えました、すべて子供は目新しい物に就ては、疑問を發し之を知らまほしと方むる事は、誰の目にも見ゆることで御座いますが、此大切なる間に對して、子供の心に了解する丈に適當に答辨する母親は、失禮ながら今までは數多くはなかつたらうと思ひます。かく女兒も疑問を抱く者であるのに、母親の不注意から之が發達を止めますから、ものを疑ふともなくなり從て思考する場合が少くなり、六七才になりますと遊びの方が忙しくなり、人形やままごとは、別段考もいらぬ、即まね許りして居りますのに、男の子の方は、草紙を見たり、英雄の昔語を聞かしていろ／＼想像したり、又は畫などを工夫してかいたり、何事も腦力を練るやう

な遊びが多いやうに感じます、而して女子は男の  
子のやうにぢつとして居りませんで、よく手足や  
口が活きます、かく女兒は幼少な時より敏捷な代  
り、上走りが多く、一体に能力が平等に活きます  
から、伶俐に見えますが、一つの事に熱心に考ふ  
ることは成し得ません、十才以上になりますと髪  
飾や服装と余計な處に心を配りますから、沈着な  
ことはむつかしくなり、かつ忌み嫌ふ傾きが見に  
ます。まづ小學校時代は能力が平等に活く爲め  
せうが、成績が男の子に劣りませんけれども、女  
學校位になりますと第一數學が出来なくなりま  
す、この時期に男子と思考力を比べますによほと  
の相違が生じます。要するに母親の保育が一大原  
因を作りますからこれに注意せられたなら、幾分  
か思考力を増すだらうと信じます。

第二生理上から申せば、彼特別の時期には何事  
も考へられませんが、深く考へますと直ぐに頭痛と  
なり、眩暈となり、身体に甚しき影響を及しま  
す。かかる場合に若し學生に於きまして、試験で  
も御座いますと、氣の毒な不結果を來します。之  
を無理致した人は後で治しがたき病根を作りま  
す。一体思考力は練習せよと光が出ると申  
しまするに、女子には不幸な點が慣習に手傳まし  
て妨げますから、男子に比して乏しきやうに存じ  
ます。

記者申す、大体此問題は矢張實説の如く、女子教育上の習弊  
さ、女子身體上の原因から來て居る事ご信じます。然し女子教  
育上の習弊に關し、一概に罪を母の保育にのみ歸せらるゝは  
如何に、女子には學問が入らぬ、こは當今稍教育ある父でも  
云はるゝことで、理屈を云へば轉婆さいつて輕蔑せられる  
は、只今の常態です。これが、抑々の一大原因でしよう。  
夫から生理的の方から申しますと、女子の特別時期の御説も  
御尤でしよう。けれどもまだ其外にありませんまいか。多くの

心理學者生理學者は、精神作用の最肝要なる機關たる腦髓の併かも其中の主要なる部分たる皮質の重量が、男女著るしき差があるといふことに於て、一致して居る様です。これが又主なる原因だと考へます。夫から其他身體上骨格筋肉等の組織の違なども、無論間接的原因であらうかと存じます。

## 子どもの朝寢

巖手 凹凸子

「早起は健康長壽の基」などいつて、昔から一通りでなく朝起さを奨励しました。が、この頃はとかく心理學とか衛生學とかすべて理論的學術の進歩したためでありませう、朝早く起きるのは健康上から宜しくないとか、朝寢をすると長生さをするとか、随分朝寢については、かれこれ議論のあるよーになつてきました。が、無論わたくしは夫れについて可否するだけの能をもつて居りませぬ、併

しこの朝寢については世の青兒者は余ほど考へべきものであらうと思ひます、私などは今で朝寢の習慣がなほらんで、時としては朝寢どころでなく寢つゝけに晝寢となることがありませう、ともかく、私の考へでは小供の時から朝起さを勵ました方がよからうと思ひます。

なほ昔から朝起きの早い人にえらい人が多くでたなど、書物などにも載せてありますが、これにはいくらか理由のあることでありませう、現に故の中村博士は朝起きの早い人とおそい人との利害をくらべて、朝は早く起きるものであるとあつて戒められました。が、其の計算が如何にも面白い、先づ朝六時に起きる人と八時に起きる人をくらべて見ると、四十年のうちには、二万九千余時間といふ違ひがこれ、之を年になほして見ると、